



こうほう
こども広報

かすがい
春日井

へいせい ねん なつごう ほうこう かすがいし
平成23年 夏号 発行 / 春日井市

とくしゅう
特集

ひがし にほん だいしんざい
東日本大震災

せんぼつ たかもりだいりゅう ひさいち
千羽鶴を高森台中から被災地へ

東日本大震災

～派遣職員から子どもたちへのメッセージ

春日井市では被災地に職員を派遣し、さまざまな支援活動に取り組んできました。震災直後に被災地では何が起きていたのか。市の職員が、映像ではなく、自分の目で見て、肌で感じた被災地の様子を子どもたちに語りました。



ボーイスカウトの井高さん、ガールスカウトの寺島さんが被災地へ派遣された市の職員にインタビューをしました。



ボーイスカウト
まつばらしょうがっこう
松原小学校 6年生
井高 直輝さん



ガールスカウト
いわなりだいにししょうがっこう
若成台西小学校 6年生
寺島 琉華さん

井高：被災地ではどのような支援活動をされたのですか。
小山：診察などの医療活動を行いました。震災から約一か月半経過していたこともあり、いつも飲んでる薬が無くなった糖尿病や高血圧の患者さんが多かったですね。
川口：緊急消防援助隊として、津波で取り残された人の救助のほか、水の中やがれきの山の中から行方不明者の捜索などを行いました。



川口：井高さんと寺島さんもテレビで被災地の様子を見たと思いますが、実際はそれ以上にひどい状況でした。海から約2kmも離れた場所なのに、津波で小学校の二階はほとんど使えませんでした。

井高：被災者はどんな様子でしたか、特に子どもたちはどうでしたか。
望月：避難所では皆さん顔見知りです。助け合いながら生活していました。ただ、「亡くなった人のことを思うと、自分が生きて残って良かったのかと思ひ、つらくなる。」と打ち明けてくれる人もいました。
子どもたちは、毎朝バスで小学校へ通っていました。子どもが津波のことを話していたので、復興するところまで感じました。
小山：子どもたちは、校舎が無くなっ

した。
望月：保健師として、インフルエンザや食中毒の予防、病気の人の状態が悪くならないように健康相談などを行ってきました。
恒川：給水車で避難所や各地に設けられた給水所を回り、被災者に水を配りました。
松井：罹災証明書を発行するため実際に建物の被害状況を調査してきました。証明書は修理の補助金や義援金の額が決まる大切なものです。
寺島：被災地を訪れて何を感じましたか。
川口：井高さんと寺島さんもテレビで被災地の様子を見たと思いますが、実際はそれ以上にひどい状況でした。海から約2kmも離れた場所なのに、津波で小学校の二階はほとんど使えませんでした。



恒川：到着してすぐ感じたのは自然災害の恐ろしさでした。海沿いの町では建物が全く無く、がれきだけでなく、被害が延々と続いているような印象でした。
松井：皆さんつ



さんはさぞ怖かったと思います。
恒川：泊まる場所は浄水場の建物の一室で、じゆうたんのの上に、毛布、寝袋で寝ていました。天井が崩れていて余震のたびに心配でした。先発隊の食事は持参したカップ麺と缶詰に水の生活でした。作業で砂ほこりまみれでしたが、お風呂もありません。

避難所の人はそれ以上に苦労しているのですが、私たちも当たり前の生活ができません。私たちが当たり前の生活ができません。私たちが当たり前の生活ができません。

寺島：被災地での体験から、私たち小中学生に伝えたいことは何かありますか。
恒川：普段当たり前だと思っていることが地震、津波一つで全く変わってし

ていて学校に行けないんです。夏の大会に向けて練習したいのにできない野球部の高校生や、津波で楽器を流されてしまった女の子もいました。

大人の方がストレスによる不調を訴えることがありますが、幸い子どもたちには、そういったことはありませんでした。環境への適応力は子どもの方が優れていると思います。

井高：被災地で一番苦労したことは何ですか。
望月：夜中に余震の地鳴りの音がして、怖くて不安になりました。小さな余震でもこんなに怖いのに被災者の皆

は、お風呂もありません。

感謝して生きて欲しいですね。
川口：学校などで避難訓練をすると思いますが、普段から真剣に取り組んでもらいたいです。いざというときに自分の身は自分で守ることができるよう訓練して欲しいです。

松井：被災者を助けたいという気持ちを持つことはもちろん大切ですが、同時に、今自分が生きていることやできることを大事にして欲しいです。それから、今回の取材のように機会があるときは積極的に見たり、聞いたりして欲しいです。
望月：避難所でも子どもには子どもの

まいりました。家族、友人、物、水など当たり前だと思っている全ての物事に感謝して生きて欲しいですね。

川口：学校などで避難訓練をすると思いますが、普段から真剣に取り組んでもらいたいです。いざというときに自分の身は自分で守ることができるよう訓練して欲しいです。

松井：被災者を助けたいという気持ちを持つことはもちろん大切ですが、同時に、今自分が生きていることやできることを大事にして欲しいです。それから、今回の取材のように機会があるときは積極的に見たり、聞いたりして欲しいです。

大きな役割があるんですよ。難しいことではなく、あいさつをするとか、友達と仲良くするとか。震災では突然とんでもない状況に陥ってしまいますが、日々のことを毎日きちんとやることが大切だと思います。

小山：誰でも自分自身が大事だと思います。その気持ちを家族、親戚、近所の人というように輪を広げていって、誰でも人間関係をうまくやっていくことが、苦しい環境を乗り越えていく糧になると思います。感謝の心や許す心、受け止めてあげる心といった人間として心の広さを持つて欲しいですね。

望月：避難所でも子どもには子どもの

医療職員 小山 慎郎 (医師)



避難所での診療
 派遣場所：宮城県本吉郡南三陸町
 派遣期間：4月26日～4月30日
 派遣人数：7人

消防職員 川口 義彦 (消防士)



人命救助、不明者捜索
 派遣場所：宮城県亘理郡亘理町
 派遣期間：3月12日～4月24日
 派遣人数：91人

保健師 望月 裕子



避難所での健康管理
 派遣場所：岩手県上閉伊郡大槌町
 派遣期間：5月8日～5月15日
 派遣人数：1人

水道職員 恒川 孝幸



給水車による水の配布
 派遣場所：宮城県石巻市
 派遣期間：3月18日～4月5日
 派遣人数：29人

行政職員 松井 大悟



被災家屋の調査
 派遣場所：宮城県仙台市若林区、宮城県仙台市宮城野区
 派遣期間：4月21日～5月7日
 派遣人数：4人

※ 総勢132名の職員を派遣しました。派遣期間・派遣人数はそれぞれの延べ日数・延べ人員です。

地震が起きたら

いつ起こるか分からない地震。もし、今、大きな揺れに襲われたら…。
 皆さんはまず何をしますか。突然起こる地震に慌てず行動できるよう、
 地震が起きたら何をすればよいのか考えましょう。

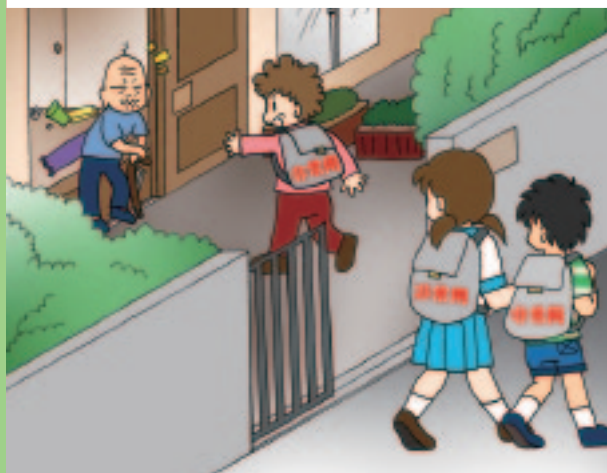
3 ひなん 避難するときは？



- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る
- 非常持ち出し品を用意する
- 避難経路は、事前に歩いて、危険な場所を確認しておく

▶ 災害時には地域で助け合おう！

災害が起きたときに、ひとり暮らしのお年寄りや障がいのある人などが素早く避難できるように、市では地域の人に避難のお手伝いを頼んでいます。



4 かぞく あ 家族に会うためには？



- 事前に家族が集まる場所を決めておく
- 集合場所の第2候補も決めておく

▶ 避難所・避難場所の確認

市では、市内の全小学校と中部大学を災害時の避難所としています。この他に公園なども避難場所としているので、自分の家の近くの避難場所を確認しておきましょう。

▶ 災害用伝言ダイヤル「171」を利用する

災害用伝言ダイヤルとは、地震などの災害が起き、電話がつながりにくい状況になったときに使えるようになる「声の伝言板」です。被災地の人が録音した内容を他の人が聞いたり、被災地の人へメッセージを送ったりすることができます。

〈使い方〉

171 にダイヤル

→ 音声案内に従って

録音 または 再生





もしも地震

1 地震が発生したら？



《家の中にいる場合》

- テーブルや机の下に身を隠す
- ドアや窓を開けて出口を確保する

《家の外にいる場合》

- 塀や電柱などのそばから離れる
- かばんなどで頭を保護する

2 揺れがおさまったら？



- 家族に声を掛け、無事を確認する
- 飛び散ったガラスの破片などでけがをしないよう、靴などを履く
- 火災になった場合は、周りの人に大きな声で助けを求め

日ごろの備え

地震発生後は、水道、電気、ガスが止まる他にも道路が寸断されて食べ物などが届かない可能性があります。地震発生直後の約3日間は自力で生活することになるかもしれません。何が必要になるか考えてみましょう。

- 飲料水(1人1日3ℓを目安に)
- 保存食(調理しなくても食べられるもの)
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ・予備電池
- タオル
- 衣類、下着
- 現金
- 通帳、印鑑
- 毛布、寝袋
- 薬、ばんそうこう
- 洗面用具
- トイレトペーパー
- なべ、やかん
- 卓上コンロ など

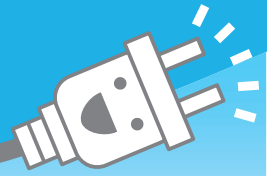
3日分って意外と
いろいろ必要に
なるんだね。



暑い夏と寒い冬では、必要となるものが違いそうだね。何を留意しておかないといけないのか、家族会議で話し合おうね。



おうちをチェック!



節電ポイント

東日本大震災での福島第一原子力発電所の事故を受けて、中部地方でも、浜岡原子力発電所の運転を停止しました。そのため、今年の夏は発電所で作る電気の量が減ります。みんなの家でも、できるところから節電しましょう!



節電できるポイントがいろいろあるよ。下のイラストから探してみよう!



こんなことにも気を付けよう!

▶ **ピーク時の使用電力を減らそう!**
特に多くの電力が使われる**平日午後1時~4時**は、できるだけ電気を使わないようにしましょう!

▶ **緑のカーテンやよしずなどを活用しよう!**
太陽の光をさえぎれば、部屋の温度も上がりにくくなるし、見た目も涼しげだね!

▶ **普段の過ごし方を考えてみよう!**
外に出かけたり、家族みんなでひとつの部屋でだらんするのも節電になるよ!

▶ **熱中症にならないように!**
節電は大切だけど、暑いときは無理をせず、こまめに水分を補給しよう!

このほかにも、どんなことが**節電**につながるか、みんなで考えてみてね!

イラストは、市内に住む丸山貴子さんをお願いしました。



すいすい
水泳
おかしま のどか
岡島 和花さん
おのしょうがっこう 6年
小野小学校6年
(KLスポーツ春日井ス
イミングスクール所属)
おも せいせき
主な成績
だい かいぜんこく
第33回全国JOCジュ
ニアオリンピック夏季
すいすいきょうぎたいかい
水泳競技大会 50 mバタ
フライ2位

ようちえん ねんちゆう
幼稚園の年中のとき、お風呂で顔をつけられなかつたことがきっかけで水泳を始めました。毎日の練習と学校との両立は大変だけど、とにかく今は水泳が楽しい！大会でベストタイムが出たときや、友達でもありライバルでもある仲間と一緒にいるときが幸せです。将来は、日本を代表する選手になって、オリンピックに出場するなど海外で活躍したいです。



スポーツや文化などで若くして活躍する人には「〇〇王子」とか「〇〇姫」といったあだ名がつきます。このコーナーでは、いろいろな特技で活躍する市内の小中学生を紹介しします。近い将来、自分の夢をかなえ、日本や世界の舞台上で活躍する人が出てくるかもしれませんよ。



きょうぎ
競技ヨーヨー
はすみ いづる
羽角 伊弦さん
ちゅうぶ ちゅうがっこう 1年
中部中学校1年
おも せいせき
主な成績
にほん せんしゅけん ちゅうぶ ちく
日本選手権中部地区
たいかい 8位・ジャッジ
特別賞受賞、全日本
ヨーヨー選手権大会1
A部門準決勝出場

ふくびき しょうひんけん
福引で商品券が当たり、ヨーヨーを買ったのが始まりです。世界チャンピオンの城戸慎也さんとの出会いから競技ヨーヨーの道に。「好きこそ物の上手なれ」で、毎日の練習や9時間にもなる週末の練習も苦しいと感じたことは全くなく、とても楽しいです。目標は全日本選手権で優勝し、いつか世界チャンピオンになることです。競技ヨーヨーの魅力やカッコよさをみんなに伝えていきたいです。



じゅうどう
柔道
たなか のぶあき
田中 伸明さん
とうぶ ちゅうがっこう 3年
東部中学校3年
(孝心館所属)
おも せいせき
主な成績
だい かいあい ち けん ちゅうがくせい
第27回愛知県中学生
たいじゅうべつじゅうどうたいかい
体重別柔道大会
だんし 73kg 級 優勝

さいしょ ともだち さそ じゅうどう はじ しょうがく
最初は友達に誘われて柔道を始めました。小学4年生までは、全然勝てませんでしたが、やるからには強くなりたいという思いで練習に打ち込みました。練習はつらいこともありますが、頑張った分だけ強くなれるし、練習後には充実感もあります。柔道は自分より大きな相手でも投げられるところが魅力です。これからも「頑張れば勝てる」と信じて、全国大会優勝を目指していきます。

せつでん ちた
節電ポイント 答え

れいぼう おんど ひく み ばな つか ばな つか
○冷房の温度が低すぎる。○見ていないテレビがつけっぱなし。○使っていないパソコンがつけっぱなし。○使っていない掃除機の電源プラグが差したまま。○扇風機を活用して節電できるよ。○誰もいない部屋の電気がつけっぱなし。○電気ポットで保温し続けるのはやめよう。○長い時間ご飯を炊飯器で保温するのはやめよう。○冷蔵庫のドアが開けっぱなし。設定も「強」ではなく「中」にしよう。○トイレのふたが開けっぱなし。暖房便座を使っているときは便器のふたを閉めよう。また、夏の間は電源を切ろう。

わたしの 歩んだ道 井原 慶子さん



プロフィール

国際レーシング・ドライバー。市内在住。F3、世界選手権など世界30か国を転戦。マカオ・グランプリでは大会史上女性初の表彰台に上った。現在は講演を通して子どもたちに自身の経験を伝えるほか、英語教育、交通社会環境の改善などにも力を注いでいる。

どんな子どもでしたか？

小学生のころは、おとなしい子で、特になりたい夢はありませんでしたが、毎日外で遊ぶことが好きでした。ピアノ、クラシックバレエ、水泳、絵画、書道などを習っていて、何にも興味を持って取り組みました。

レーサーへの夢のきっかけは？

大学在学中にレースクイーンの仕事で初めてサーキットを訪れ、それまでの自分の人生とは次元の違う衝撃を受

けました。カーレースは常に生死をかけて戦っていて、全てが非日常の世界で、ものすごい情熱が伝わってきました。その瞬間レーサーになると決意しました。

崖っぷちの覚悟

子どものころから英才教育を受けた選手と違い、お金、知識、経験、体力全てなし、運転免許すらない。他人より遅れた夢へのスタートでしたが、それでもあきらめず、ついに二十五歳でレースデビューを果たしました。

レーサーになってからも、年齢や性別、国籍など、次から次へと壁にぶち当たりました。しかし、毎日

できる限りの努力を続け、自分の弱点を克服し、壁を乗り越えました。

プロの厳しい世界では三六五日のうち本当に嬉しいことなんて二日くらいしかない。「崖っぷちの覚悟」で日々を真剣に生きないと大きなことは達成できません。

情熱が不可能を可能にする

一流のレースチームは、みんな情熱を持って最善の努力をしていて、情熱が伝わりあっています。やる気がある人には、やる気のない人をやる気にさせるパワーがあるし、情熱を持つ人同士が結びつけば、十倍、百倍のパワーになって、不可能が可能になります。



メッセージ Message

夢をかなえるためには

どんな環境にも順応する。人や文化、考え方の違いを理解し、違いを認め、自分で壁をつくらないことです。

子どものときに、勉強や遊びを一生懸命にやっておくことは、将来必ずプラスになります。

一度きりの人生。本当にやりたいことにぜひチャレンジしてもらいたいです。思いつく夢は必ず果たせます。

